

中原市長の施政方針に

会派代表者が問う！

◆市長の施政方針より◆

- ▼市民の安全・安心を高める
- ▼子どもの笑顔で満たされるまちをつくる
- ▼まちの価値を高める
- ▼まちの住みよさを高める

力強い「市民との協働」を先頭に、市民一人ひとりが幸福実感を得られる未来「持続可能な未来」という「価値ある未来」に向け、「計画と実行」をさらに前進させる一年とします。

未来会議

よしかわ

戸田 馨



◆市民の幸福実感の向上のために

問 「市民との共働」「市民の幸福実感向上」の実現を考察する中で、特に「幸福実感」については数値化する

ことが難しいものであると考えるが、市民の幸福実感向上のため、人物や功績に対し、市からの敬意と評価をお示しできる新たな手法（新しい表彰制度のあり方等）の検討について、考えを伺う。

答 「市民の幸福実感の向上」は、基本構想に掲げるまちづくりの基

本理念の一つであり、職員と共に目指すべき最大の目標である。しかしながら、施政方針でも申し上げたとおり、幸福実感の向上は行政が作り上げ市民に与えるものではなく、市民と行政の共働から生まれるものであることから、ご提案の「幸福実感につながる活動を行う市民や団体に敬意や評価を示す」とは、次の新たな共働を呼び起こし、更なる幸福実感の向上をもたらす有効な手法であると考ええる。現在、市では、「吉川市表彰条例」に基づき、市政に功勞された方や、他の模範となった方などに対し、その功績をたたえ表彰しているが、ご提案の内容を踏まえ、新たな手法について検討してゆく。

公明党

吉川市議団

小野 潔



問

①9回にわたってこのSDGsの言葉が出てくる。SDGsは10年後の2030年が目標達成年次で、この10年が達成にむけた「行動の10年」としている。市長の達成への所見を問う。②災害時要支援者の見守り・声かけは、地区防災計画策定と大きく関係

において市民の移動に係る利便性向上は。

答

①第6次吉川市総合振興計画の策定にあたり、SDGsの視点を踏まえ、10年後の未来を見据えた計画を作る。②地区防災計画の中の「地区防災マップ」を作成し、災害時要支援者の情報をマップに落とし込む。③4つの中学校区に分け、9年間の学びと育ちをつなぐ教育課程を編成する為、地域に理解と協力を頂き、「地域と共

自由民主党

吉川市議団

松崎 誠



問

旭地区の減災プロジェクト実施について、事前に地域の自治会役員等の方々に災害HUG（避難所運営ゲーム）を体験研修されてはと考えますがいかがでしょうか。

答 次回の減災プロジェクトでは内容を精査した上で研修について

ています。今後の吉川地区、二輪野江地区、旭地区の市域バランスをどう考えているか伺います。

答

それぞれの地域のニーズ、子育て、教育、インフラ整備の充実を図ることでバランスの良い発展が出来るのではと考えています。また、市全体のバランスを考えた上でも三輪野江の開発、テクノポリスの拡張を実現していきたいと考えています。